

都城市立高崎中学校 2025年1月24日(金) 文責:教頭



高崎中学校だより

生徒が生き生きと活躍する「生徒が主役の高中」



面接練習 1月24日(金)

1月24日(金)に学校運営協議会会長谷口俊一様、黒木和孝様、給食センター所長田下勝利様、PTA会長村橋裕樹様を始め地域の方々7名をお迎えして高校入試に向けた面接練習を行いました。

日頃は3学年の職員を中心に練習を重ねた生徒も緊張の面持ちで練習に臨みました。私たちが気付かないことを指摘していただいたり、張り詰めた空気感の中での質問であったりと充実した練習となりました。ご協力いただいた7名の皆様ありがとうございました。今後ともご指導、ご協力をお願いいたします。

また、この練習の成果を発揮し、よいご報告をできるよう全職員で努めて参ります。



都城市精励賞表彰式 1月16日(木)

1月16日(木)に都城市精励賞授賞式が行われました。本校からは船木優帆さんが受賞しました。また、受賞者を代表してお礼の言葉を述べました。

朝のボランティア活動、地域の行事へボランティアとしての参加等の功績が認められての受賞となりました。お礼の言葉では、感謝の意を伝えるとともに、今後とも地域や学校に貢献していきたいという思いを述べてくれました。

「継続は力なり」といいますが、本校のボランティア活動が定着してきた証でもあります。よき伝統を引き継いでいきたいと思ひます。



教頭の霧島日記

～あれから30年～

平成7年の「阪神淡路大震災」から30年が経ちました。また、1月に入り都城でも震度4の地震があり、「南海トラフ地震」に対しての怖さを感じました。

本校の学級通信でも当時のことが記事になっていたので、紹介します。

【2年1組学級通信(窪田先生)より】

その当時、私は高校2年生で一つ下の学年が修学旅行に出発する日でした。今なら絶対に中止または延期という判断をする状況ですが、当時の修学旅行団は、あろうことか関西方面へと出発しました。当時の危機管理のレベルがうかがえますね。その日は1日中、後輩たちの身を案じながら授業を受けていた記憶があります。修学旅行団は日向市を出発した後、大分県までバスで進み、フェリーで神戸港へ。というのが予定されていた行程でしたが、震災当日の神戸港は震災の影響で船を着けるところではなかったそうです。その結果、大阪の南港へと進路を変更し、予定していた京都清水寺の見学をキャンセル、目的地の長野県蓼科高原に到着したのは22時過ぎだったとか。きっと余震が続く中での不安な旅だったに違いありません。(中略)

今朝の通勤途中で聞いたラジオ番組での、被災された方が話された中に「後悔のないように、一日一日を大切に生きたい」という言葉がありました。今、自分の命あることに感謝しながら生活していかなければなりませんね。

今自分がここにいて、生きていることに感謝しなければと感じます。当たり前は当たり前ではないのですね。

私は当時27歳、臨時講師として延岡の中学校に勤務していました。テレビに映し出される大災害の被害の大きさに驚くばかりでした。

あれから30年。自然災害を防ぐことは不可能ですが、それに対する備えはできるはずですが、防災意識は、私たち教職員だけでなく生徒、保護者、地域全体の問題です。令和6年度も残り2か月あまり、安心・安全な学校経営をするため、再度気を引き締めていきたいと思ひます。